

野蒜復興新聞

三専門部会 事業決定



▲ 7月21日(木)第3回役員会の様子

第3回 野蒜まちづくり協議会 役員会

7月21日(木)に第3回野蒜まちづくり協議会役員会が開催されました。本会では最初に、各専門部会の平成28年度事業計画について、各専門部会の部会長等より報告がありま

交流・コミュニティ部会…植栽やペットボトル事業等
 教育福祉部会…サロンや寺子屋、あいさつ運動等
 安全安心部会…街の見守りや交通安全教室の実施等

部会名	活動内容
交流・コミュニティ部会	・花の植栽 ・ペットボトル事業への協力 ・野蒜運動場の除草 ・CDコンサート
教育福祉部会	・サロン ・スポーツ交流大会 ・コンサート ・寺子屋 ・あいさつ運動
安全安心部会 (前防犯防災部会)	・市の交通安全運動行事への参加 ・街の見守り ・交通安全、防犯教室の開催 ・野蒜地域等の事件発生情報の収集、広報

▲ 各専門部会の平成28年度活動内容

した。各部会はそれぞれ7月中旬に部会議を開催し、活動内容を協議しました。交流・コミュニティ部会は花の植栽事業やペットボトル事業への協力等を通じた地域内外のコミュニケーション活動を推進します。教育福祉部会はサロンや寺子屋、あいさつ運動を通じた地域の教育と福祉に資する活動を行います。また、このほど名称変更になった安全安心部会(前

防犯防災部会)は、地域の防犯と交通安全を主軸とした啓発活動を行っていきます。

また、報告事項として、野蒜ヶ丘に開店するお店の愛称選定委員会の委員について、野蒜まちづくり協議会の大槻副会長を委員長とした計5名と事務局2名で構成される事務局案を提示し、了承されました。お盆明けに第1回目の委員会が開催される見込みです。

協議事項として、今年の地区民まつりの日程について協議され、11月20日(日)を基本とし、今後内容などが協議されていくことが承認されました。また、昨年度も実施しているスポーツ交流大会は、今年度は9月10日(土)に開催することが事務局より報告されました。詳細は追って、周知されます。

ペットボトルって？

ペットボトルにLED装置を装着した装置のこと。暗くなる自動で発光する仕組みとなっており、夜にはイルミネーションが楽しめる。石川県の輪島市では大規模なイルミネーションイベントが開催されている。

野 蒜 北 部 丘 陵 振 興 協 議 会

次回、宅地引渡しは9月

借地申請等に関する説明会が開催されました。
 (※9月引渡し世帯対象)

7月3日(日)に借地申請等に関する説明会が開催されました。

今回は、9月に予定されている中央エリアと西部エリアの計62区画の宅地引渡し世帯を対象とした説明会があり、借地契約や補助金申請等の内容について担当課より説明がありました。

9月の宅地引渡し式は9月4日(日)、野蒜市民センターでの開催を予定しています。

災害公営住宅部会

7月12日(火)に第16回災害公営住宅部会が開催されました。

最初に、戸建住宅の玄関ドアと壁面色彩の組合せパターンについて報告があり、西部エリアと中央エリアで各8パターン(計16パターン)の色彩が採用されることを確認しました。また、前回部会で質問のあったプレハブ仮設住宅と災害公営住宅のトイレの広さについて、少なくともプレハブ仮設住宅よりも広い設計に

なることが報告され、了解されました。次に、位置決めスケジュールとプラン変更希望調査の実施について協議されました。位置決めスケジュールについては継続協議となり、今年度内に実施していく方向で調整することとなりました。プラン変更希望調査については個別対応を基本とし、実施時期については位置決めスケジュールとの兼ね合いを考慮して調整することとしました。

次回部会は8月下旬から9月中旬の開催を予定しています。議題は、「位置決めスケジュールの調整」等を予定しています。

7月12日(火)第16回災害公営住宅部会の様子



野蒜想いのリレー

自然災害は日本だけのものではなく、世界で起こり得ることです。2004年12月に、スマトラ沖地震による津波で、インドネシアのバンドア・アチェ市が壊滅的な被害を受けました。記憶に新しい災害では、昨年の4月に、ネパールを大地震が襲いました。今もなお、復旧活動が続いています。

東松島市では震災後、インドネシアのバンドア・アチェ市と協定を結び、震災から得た学びを、バンドア・アチェ市をはじめとしながら、世界の国々と共有する取り組みが進められています。2013年11月、台風30号(フィリピン名・ヨランダ)による高潮で大きな被害を受けたフィリピンのレイテ島との繋がりもその一つです。

東松島市は、これまでフィリピンの被災地を訪れ、現地の人々と東松島市の経験を共有してきました。現地被災地での居住禁止エリアの設定が課題となった時、東松島市の土地利用の地図が一つの参考になりました。「重要なことは、住民参加型で計画を立て、実施していくプロセスである」という東松島市の考えは、現地の人々の共感を得られました。フィリピンからも東松島に研修や視察で訪れています。特に漁業、水産加工業の分野で、野蒜地域の東名漁港牡蠣養殖などの現場を訪れ、漁業者たちとの意見交換や技術について学ぶ機会も多くありました。災害はたくさん悲劇を生みましたが、一方で、世界とつながるきっかけも生まれたのかもしれない。

野蒜と世界はつながっているんだね



野蒜まちづくり協議会
 イメージキャラクター
 マックん



フィリピン現地で東松島市の取り組みを報告



フィリピンから野蒜地域の東名漁港を訪問